恒例 親子つり大会

今年も雪入川で多くの歓声が

6月 7日

つり大会当日の深夜1時、栃木県大田原から約3千3百匹のニジマスを積んだ1のトラックが雪入川に到着。市子ども会成連合会(磯部正直会長)のメンバーなどトラックの荷台から網でニジマスをすくい上げ、川土手をリレーして放流しました。大会には307人の申し込みがあり、参者は次々とニジマスを釣り上げてはすぐ釣り竿を垂らして数を競いました。その、針にかからなかった魚をつかみどりすなど、多くの家族の歓声が雪入川に響きった一日となりました。

渡る後に加　いが育台市

親子つり大会の歴史

昭和62年　親子でふれあいを深め、自然に親しむことを目的に鯉や鮒の釣りと草魚のつかみ取りが中佐谷の天の川で始まる
昭和63年　中根川で開催
平成元年　天の川新治橋付近で開催
平成2年　下志筑の恋瀬川わきの水路へ会場を移動
平成6年　現在の雪入川へ会場を移動し、魚もニジマスになる

恋瀬川わきの水路で行われていた頃のつり大会(平成2年)

最重量 優勝

君山梨乃さん(七会小4年)、延之くん(6年)、一夫さん
「また優勝できました！勝因は、魚がエサをつついたら、すぐに引くこと。エサはぶどう虫。親はエサつけと針とりに専念しました。これからバーベキューにして食べます。一昨年優勝、昨年3位。」

大物 教育長賞

松井ちひろさん(下稲吉小5年)、忠さん、さとみさん
「勝因は小さい竿を使用し、エサにぶどう虫を使用したこと。中学校に行っても参加して頑張りたい。このニジマスは焼いて食べます！重さの部では昨年に引き続き準優勝。」

その他の成績

準優勝	9.73 kg	松井ちひろ・忠・さとみ	組（下稲吉小）
第3位	7.80 kg	横田朋佳・勉	組（上佐谷小）
第4位	7.70 kg	井坂唯・義美	組（下稲吉東小）
第5位	6.00 kg	齋藤美空・茂	組（安飾小）

【敬称略】

市民ふれあい農園で初夏の汗

6月 1日

共同作業でサツマイモなどの苗植え

市では、土に触れ、作物を作る喜びを感じながら市民が交流できる場所を「市民ふれあい農園」として、下稲吉地区の畑24平方メートル(1区画当)をお貸ししています。(※今年度の受付は終了しています。)

ふれあい農園の参加者は、普段は区画内で思い思いの野菜を栽培しながら、年に3回の講習を受け、農業の知識を深めています。

6月1日には、全体講習を受けたほか、共同スペースにマルチビニールを張ってサツマイモの苗を植えたり、オクラの種をまくなど、参加者全員が協力して農作業を進めていました。

参加者の中には、小さい子どもと一緒に自分の育てている畑を見守っている家族もいました。

共同スペースで分担して作業を進める参加者

香 音 色 街のわだい TOWNS★TOPICS

6月 25日 「行政相談をもっと身近に」高校へ全国初の出張教室

県内初の行政相談出張教室

総務省主催の「行政相談出張教室」が、つくば国際大学高等学校千代田校舎(上土田)で行われました。

教室は、1年4組の24人の生徒を対象に、「現代社会」の科目の一つとして行われたもので、総務省茨城行政評価事務所の藤原課長と市の船串節夫行政相談委員が行政の仕組みや行政相談の仕方などについて説明をしました。学校に出張して教室を開くことは県内初の試みであり、高等学校への出張は全国初。

船串相談委員らは、「行政相談委員は、行政に対する苦情や要望を解決に導き、みんなが住みやすい社会にすることが仕事。行政は、道路の舗装などみんなの身近なところに関わっている。授業で聞いたことを家族で話し合い、相談ができるところがあると知って欲しい」と話しました。

つくば国際大学高等学校で講義をする船串行政相談委員

「かすみがうらブランド」の確立を 6月 27日

活動の母体となる推進会議が発足

市では、恵まれた自然環境のもと育まれる多彩な農水産物の価値を高めたり、特産品の開発などを進めるため、「かすみがうら市ブランド化推進会議」を設置し、この度、第1回の会議をあじさい館で開催しました。

推進会議には、市商工会や農業協同組合などの関係団体が参加し、市推奨品制度(ブランド認証基準)の導入や特産品の開発などを進めます。会議の中では、ブランド化に期待する声とともに、「人的資源の活用も施策に反映されるべき」「消費者ニーズの多様化などへの迅速な対応が必要」などの意見が交わされました。

今年度は、かすみがうら祭りで発表予定の「焼きいも焼酎」の商品化や「創作スイーツ・おやつコンテスト(仮称)」などの具体的な事業が計画されていて、準備が進められています。

活発な意見が交わされた第1回目のブランド化推進会議

6月 28日 「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止キャンペーン

みんなで薬物を根絶しようという意識の普及

土浦保健所などが実施する「平成20年度626ヤング街頭キャンペーン」が市内のショッピングモールで行われました。この事業は、県民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、国連決議による「626国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り薬物乱用を防止することを目的としています。626とは、1987年(昭和62年)に開催された国際麻薬会議の終了日6月26日のことです。

当日は、保護司や民生委員・児童委員など90人以上の協力者が、買い物客らに「薬物の乱用を防止しましょう」と呼びかけながらティッシュなどの啓発物を配布しました。また、下稲吉中学校の生徒を中心に行われた薬物乱用防止国連支援募金には1万円超の募金が集まりました。

店頭で募金活動や啓発物を配布する下稲吉中学校のヤングボランティア